

『ボイデルによるシェイクスピア戯曲版画集； シェイクスピア画廊に展示された、一流の画家達によって描かれた絵画からの』

Boydell's graphic illustrations of the dramatic works: of Shakespeare consisting of a series of prints forming, an elegant and useful companion to the various editions of his works, 1813.

図書館司書長 平井 紀子

本書はシェイクスピア劇の舞台場面をモチーフにして描かれた100枚から成る手彩色銅版画集で、「シェイクスピア・ギャラリー」のオーナーであったジョン・ボイデルによって企画・出版されている。ボイデルはこの版画集を制作するにあたり、当時イギリスで活躍していた一流の画家に原画を描かせ、画廊に展示された絵から20人の作品100点を選び、下絵にした。

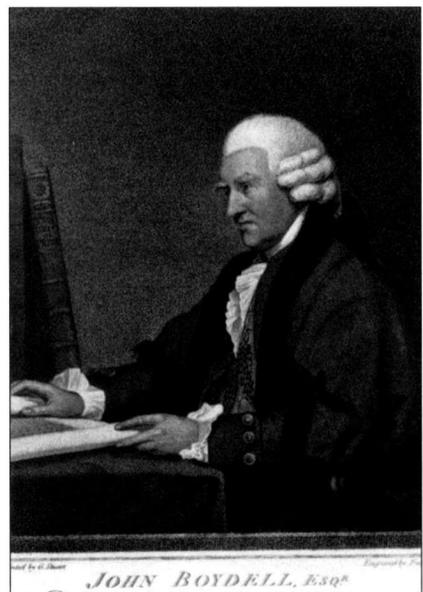
シェイクスピア劇を題材にした絵画は、本書のように一つの企画のもとに制作された画集もあるが、むしろ画家個人がそれぞれの思いのもとに自由に描いた作品の方が一般的には知られている。とくにロマン主義時代のシェイクスピア崇拜の風潮と相まって、各国の画家たちが競いあうように描いている。なかでもシェイクスピアに深い関心を示したのはラファエル前派の画家達で、J. E. ミレイの「オフィーリア」やロッセッティの「オフィーリアの発狂」など広く親しまれている作品が少なくない。またラファエル前派の画家の作品と本書に集められた作品を比較すると、ラファエル前派の作品の方が質的に高いと評価する人も多い。

しかし、一人の作家のために、これだけ多くの画家を総動員した企画というもおそらく美術史には例がなく、ボイデルが設立した「シェイクスピア・ギャラリー」のもつ歴史的意義は高い。なお、私見を付け加えれば、「シェイクスピア・ギャラリー」の本来の意義は、当時のイギリス美術界の歴史的な背景のもとで創立されたことと、それに生涯をかけたジョン・ボイデルという人物にあると筆者は考える。

ジョン・ボイデル (John Boydell, 1719-1804) は

イギリス西部にあるシュロップシャー州に生まれ、ロンドンの美術学校で版画を学んだ。自らも版画師として風景画の銅版画を制作するが、1767年頃までには版画制作から手を引き、生涯の仕事となる版画の売買や版画出版業に着手する。その後、政界に進出、1782年に市会議委員（アルダーマン）に選ばれ、1785年には州長官に就任した。長官在任中、イギリスの画家の作品を優れた版画家に彫版させ版画に複製して、パリやヴェニスに輸出して好評を得る。版画による海外貿易で得た利益で、1789年にロンドンのクラブ街の一角ペル・メルに「シェイクスピア・ギャラリー」を設立して一躍名声をあげ、その余勢を受けて、翌1790年、ついにはロンドン市長まで勤めた人物である。

ボイデルは画廊開設にあたって、当代一流の画



ジョン・ボイデルの肖像画

家たちにシェイクスピア劇の舞台場面を描かせた。30人以上の画家から200点近い作品が集まり、ギャラリーに展示された絵は大評判になった。彼は展示された絵から比較的小型の絵100点を選び、1802年に『国民版シェイクスピア戯曲全集』（全9巻）の挿絵にして出版し、翌1803年には、大型の絵100点を選んで『イギリスの画家によるシェイクスピア戯曲版画集』を刊行した。これが本書の初版である。

ポイデルが版画商として活躍した18世紀後半は、建築・彫刻・絵画・工芸など芸術のあらゆるジャンルで古典古代への回顧が著しく高まった新古典主義様式の全盛時代であった。絵画の分野では、古代的なモチーフが多く用いられ、ギリシア・ローマの神々、キリスト、聖人などの物語を描く歴史画がその頂点とされた。ヨーロッパ美術はフランス、イタリアを中心に展開されていたが、イギリスは産業革命により科学技術は各国より先んでいるものの、絵画の分野では遅れをとっていた。イギリス美術界は、17世紀にはヴァン・ダイク (A. van Dyck, 1599-1641) が肖像画家として



R. ウェスタル画 ハムレットより「オフィーリアの死」

活躍したが、彼はフランドルから招かれたお雇い
宮廷画家で生粋のイギリス人ではなかった。ウィ
リアム・ホガース (W. Hogarth, 1697-1764) の登
場により自国の誇る画家を得るが、ホガースは風
刺画家・風俗画家であっても歴史画家ではなく、
正統派からみればマイナーな画家であった。1768
年にジョージ三世の後ろ楯を得てロイヤル・アカ
デミーが設立されたのも美術面での遅れに対する
反省が理由の一つであった。アカデミー初代院長
は、本書の『真夏の夜の夢』の場面を描いている
レイノルズ (J. Reynolds, 1723-1792) である。レ
イノルズは今日では肖像画家として知られている
が、彼の本来の意図は、当時のヨーロッパ絵画の
主流である歴史画をイギリスに興すことにあつ
た。だが、歴史画は、美術的には高い評価が得ら
れても、無名の画家にとってはあまり売れる絵で
はなく、彼らは肖像画や風景画、貴族に好まれる
馬や狩猟の絵を描いて生活の糧にしていた。ポイ
デルはこうした画家たちの絵の売買やオリジナル
の絵から版画に複製する仲介役を受け持ち、自ら
も利ざやを得ていた。レイノルズをはじめとする
アカデミー会員たちがポイデルを中心に「シェイ
クスピア・ギャラリー」の創設を思い立ったのは、
イギリスの美術をフランス、イタリアの水準まで
引き上げようというイギリス美術界への熱い思い
が秘められていたのである。

しかし、ポイデルが企画したシェイクスピア戯
曲版画の海外輸出は、不幸にもフランス革命によ
って中断され、彼は経済的にゆきづまり、財産は
没収、版画集は競売にかけられて、1804年にチー
ブサイドの自宅で寂しくこの世を去った。

予定より遅れて1803年に出版された『ポイデル
による版画集』もあまり好評ではなかったらしい。
一説には版画集は1805年に出版され、彼はこの版画
集の出版をみることなく亡くなった、ともいわれ
ている。画廊は処分され、絵画も散逸し、今では
この『ポイデルによる版画集』のみが名画のおも
かげをとどめている。

本書の原画を描いた20人の画家は、当時のイギ
リス美術界では一流であったが、今日、美術史に

